

中野区教育委員会会議録 平成22年第11回定例会

○開会日 平成22年4月9日(金)

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午前10時00分

○閉 会 午前10時39分

○出席委員(5名)

中野区教育委員会委員長	飛鳥馬 健 次
中野区教育委員会委員長職務代理	山 田 正 興
中野区教育委員会委員	高 木 明 郎
中野区教育委員会委員	大 島 やよい
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○欠席委員(0名)

○出席した事務局職員(7名)

教育委員会事務局次長	合 川 昭
副参事(教育経営担当)	白 土 純
副参事(学校再編担当)	吉 村 恒 治
副参事(学校教育担当)	古 屋 勉
指導室長	喜 名 朝 博
副参事(生涯学習担当)	飯 塚 太 郎
中央図書館長(統括)	小谷松 弘 市

○担当書記

教育経営分野	落 合 麻理子
教育経営分野	仲 谷 陽 兵

○会議録署名委員

委員長

飛鳥馬 健 次

委 員

高 木 明 郎

○傍聴者数 1人

○議事日程

[議決案件]

日程第1 中野区教育委員会委員の議席の決定について

[報告事項]

(1) 委員長、委員、教育長報告事項

- ・ 3 / 27 中野区薬剤師会学校医部会の講演会について
- ・ 4 / 1 校長・副校長辞令伝達式、新規採用・転入主幹・教員辞令伝達式について
- ・ 4 / 1 中野区新規採用職員入区式について
- ・ 4 / 2 中野区さつき寮開所式について
- ・ 4 / 2 中野警察署年度初め挨拶について
- ・ 4 / 3 東京都医師会学校医初任者研修について
- ・ 4 / 5 野方警察署年度初め挨拶について
- ・ 4 / 8 平成22年度東京都教育施策連絡会について
- ・ 4 / 8 東京都医師会学校医会について

(2) 事務局報告事項

- ①平成21年度第1回中学生「東京駅伝」大会競技結果（学校教育担当）
- ②平成22年4月1日付教育管理職の異動について（指導室長）
- ③デジタル美術館「中野区の至宝」について（生涯学習担当）

中野区 教育委員会  
第 1 1 回定例会  
(平成 2 2 年 4 月 9 日)

午前10時00分開会

飛鳥馬委員長

皆さん、おはようございます。

教育委員会第11回定例会を開会いたします。

本日の出席状況は、全員出席です。

本日の会議録署名委員は、高木委員にお願いいたします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりでございます。

<委員長就任あいさつ>

飛鳥馬委員長

それでは、私が委員長になって最初の委員会ということで、一言ごあいさつを申し上げたいと思います。

私も、中野にお世話になりましたもう5年になりますが、まだまだ中野のことでわからないことがたくさんありますので、何かと不手際、あるいは皆さんにご迷惑をかけることがあるかと思っておりますけれども、一生懸命やりたいと思っておりますので、ぜひご協力のほどよろしくお願いいたします。

<事務局職員紹介>

飛鳥馬委員長

続きまして、4月1日付で事務局職員の人事異動がございましたので、次長から報告をお願いいたします。

教育委員会事務局次長

まず、4月1付で、私が教育委員会の事務局次長に就任をいたしました。よろしくお願いいたします。

なお、教育委員会事務局副参事（教育経営担当）ということで、白土純が着任をしております。また、教育委員会事務局副参事（学校教育担当）ということで、古屋勉が着任をしておりますので、一言ずつ自己紹介をさせていただきます。

副参事（教育経営担当）

教育経営担当の白土でございます。よろしくお願いいたします。

副参事（学校教育担当）

学校教育担当の古屋でございます。よろしくお願いいたします。

飛鳥馬委員長

ありがとうございました。

それでは、日程に入ります。

<議決案件>

<日程第1>

飛鳥馬委員長

日程第1、「中野区教育委員会委員の議席の決定について」を上程いたします。

委員の議席については、中野区教育委員会会議規則第4条の規定により、委員長が指定することになっています。

ただいま着席している議席をそれぞれの委員の議席として指定いたします。

以上で終了いたします。

<報告事項>

<委員長、委員、教育長報告事項>

飛鳥馬委員長

それでは、委員長、委員、教育長報告です。

最初に、私のほうから報告をいたします。

4月1日に、新しく校長先生になられた方、あるいは新採の先生方、それから他区から転入された方の辞令伝達式がありましたので、参加し、あいさつをさせていただきました。

それから、東京都の教育委員会の施策連絡会というのが毎年行われているわけですが、きのう都庁でありまして、教育長と出席をしてきました。例年、東京都で今年度やることについて、大まかなことは、小学校向け、中学校向けにカラーのパンフレットが配られますけれども——こういうものですね。抜粋みたいな。それをもうちょっとたくさん書いた、厚い、教科書みたいな冊子になっているのが配られまして、その説明が主になるかと思えます。あと、東京都の教育委員さん全員のあいさつが一言ずつありましたが、最初に、委員長のお話を皆さんに報告したいなと思っております。

それは「フィンランドの教育について」ということなのです。委員長は、大分とか、栃木とか、和歌山とか、秋田とか、8人ぐらいでフィンランドに教育視察に行ってきたのですね。そのときの話なのですけれども、向こうの大学とか研究所とか職業訓練学校とかというのを何校か回ってきての報告です。多分皆さんもご存じのことも多いかなと思いますが、本もいろいろ出ておりますので、ちょっと骨子だけ申し上げると、フィンランドは日本と違いまして、小学校1年生が7歳からなのです。だから、中学校を卒業するのは16

歳と1年遅いのですが、それを2000年から、6歳のときに就学前教育というのを始めたというのです。委員長の話によると、フィンランドも家庭の状況がいろいろあって子どもを育てる力が弱まっているからそういうふうにしたのではないかというふうに言っております。したがって、6歳で子どもが通う。99%は通っているということなのですけれども、どうもそれは幼保一元化のシステムでやっているようだということです。

ご存じのように、PISAの結果で言えば、世界で一番学力が高いと言われているわけですが、フィンランドは人口も非常に少ない、資源もない国だけれども、日本と非常に似ているのです。資源がない、国土がそんなに広くないとか。それで、人材だけが頼りで、教育を何とかしなければいけない、教育で育てるしかないということで、一生懸命教育に力を入れているということです。

そのときにちょっとおもしろいのが、エリートをつくらないというのです。植民地時代にエリートは何人かいて、国全体を支配するといいますか、左右するといいますか、そういう関係もあったりして、歴史的にエリートに対して嫌悪感というのがあって、したがって、自分は自分、他人は他人という非常に自立した人間を育てようとしているらしいということです。自主性と自立性、自己責任、そういうものを徹底して教えるらしいのです。ちょっと長くなって申しわけないですが、例えば、就学前教育で言いますと、すべての子どもに目標を立てさせる。それを実現、達成する方法も子どもに考えさせる。それをやらせて、子どもに自己分析もさせる。子どもたちは小さいときから自分のことを考え、自分で解決する方法を考えるということをやっていくのです。先生とか親というのは強制はしない。こうやりなさいとか、余り指示しない。自分で考えさせる、徹底して考えさせるということ。大人はアドバイザーだということです。大人はアドバイザーなのですけれども、ネガティブな評価はしない。ポジティブな評価をしてあげる。励ますということなのだろうと思うのですけれども、そういうふう育てていくということです。

あと、小学校、中学校に行くわけですが、そういうふうに「自分は自分」という教育をした成果かどうかわかりませんが、日本と違うところは、普通科に進む、職業科に進むというのは今のところ半分ぐらいです。半分ぐらいの子がやはり職業科に進むということです。小さいときから大人の生き方とかを見ながら、あるいは考えながらそうなるのだろうと思うのです。職業科に進む場合に、教育設備が非常に整っていて、ちょっとした小さな会社の工作室といいますか、日本の技術科室などというものではなくて、ちゃんと最新の機械が入っていて、大人と同じような実験ができると。そういうのをやっているのだ

そうです。それをやれば、自動車の整備もできるし、住宅建設業ですね。高級住宅も建てられるようになる。そういうことを徹底してやっているということです。

あと、教員養成のこともよく言われるわけですが、大学院修士課程5年までということで卒業していると言われるわけですが、これも、日本で言えば教育実習のようなことを学生のころから徹底してやって、現場に行ったときすぐ活躍できるような先生を育てているわけです。日本とシステムも違うわけですが、先生方に対して非常に評価が高いのだそうです。学生が入学するとき、ほかの学部に比べて競争率が一番高いと言っていました。給料はそんなにいいわけではないのだけれども。委員長は強調していましたね。そんなによくはないけれども、国民からの信頼というのでしょうか。だから、やりがいがあるのでしょうか。ということで、そういうので教員養成をやっていると。

最後に、家庭教育。これはまたびっくりですが、官民を問わずに勤務時間は8時から16時で終わり、残業はないというのがほとんどだそうです。だから、フィンランドでは、家庭で小さい子に読み聞かせをしているとか、小学校低学年でも親と一緒に読書をしてくるとか何かやるというときに、そういうことができる条件があるのです。そういう話を聞くと、日本はちょっと違うのかなという気がします。ただ、フィンランドがやっていることを物まねすればうまくいくのではないのではないかなというような気がします。

ということで、非常に長くなってしまって申しわけございません。ほかの委員さんの話もいろいろあるのですが、省略いたします。

それでは、山田委員、お願いします。

山田委員

私は3月27日土曜日ですが、中野区薬剤師会の学校医部会に招かれまして、最近の予防接種についてのお話をさせていただきました。ご承知のとおり、子どもたちへの予防接種、最近になりまして、輸入されたワクチンがたくさん日本に入ってきておりますので、例えば子ども用の肺炎球菌のワクチンですとか、ヘモフィルスインフルエンザのH i b ワクチンの話、それから、この2～3日、新聞でかなり話題になっていますし、テレビで取り上げられています子宮頸がんワクチン、こういったものについてのお話をさせていただきました。

また、学校薬剤師の先生方は、主には、学校の健康教育の中で環境の問題と、最近では薬物乱用についていろいろと造詣が深く、一緒に勉強させていただきました。非常にためになった会でした。学校では、学校医、学校歯科医、学校薬剤師の三師がいるわ

けですけれども、今後とも連携をとって、子どもたちのために、学校での健康維持・増進に寄与できればと思っております。

4月1日は、委員長ご報告のとおり、新しく中野区に赴任されました先生方並びに新任の先生方とのごあいさつがありましたので、出席をいたしました。

4月2日でございますけれども、このたび桃花小学校のすぐ近くに中野区さつき寮という母子寮が、前はたしか七中の近くにあったと思いますけれども、さつき寮が移転してまいりまして、その開所式が行われました。私は、この4月からさつき寮の嘱託医を拝命しておりますので、その関係で出席をいたしました。

この施設は林野庁の跡地と聞いておりますけれども、桃花小から歩いて100メートル足らずですか、非常にすばらしい施設です。入りますと、中はすぐに広いフロアがありまして、そこでは、将来的には夜間の一時保育、トワイライトと言っていましたけれども、そういったものも手がけたいというようなお話がございました。また、2階以降は居住スペースがあります。母子寮でございますから家族が住まうわけですけれども、非常に個室化されたマンションに近い建物で、そこで生活ができるということです。もともとは児童福祉法に基づいた母子生活支援施設で、女性の就労支援ということだとは思うのですけれども、たしか最大に居住できるのは2年間ぐらいというふうに聞いております。これは、設置主体は中野区ですけれども、運営主体は社会福祉法人共生会というところに指定管理者として委託をしているというふうに聞いております。5年前からだそうです。

この共生会という社会福祉法人ですけれども、葛飾と江戸川で母子寮を運営していらっしゃるとか、児童養護学校を都内3カ所、また学童保育についても都内で6カ所を経験しているということです。この「共生」というのは、もともとは養護施設が立ち上げだったそうで、「共に生きる」ということで「共生会」というのだそうですけれども、そこが運営主体ということで、10人の職員が常勤で配置されているということでした。

今後、このさつき寮の子どもたちが、例えば近くにある保育園ですとか、たしか橋場保育園が近いのではないかなと思うのですけれども、あと、桃花小学校。中学校ですと九中に通うことになるかと思えます。どうか健康で、こういった施設の中で伸び伸びと育ていただければと思った次第であります。

4月3日は、東京都医師会が毎年学校医の初任者の方たちのための研修会を開いておりますけれども、その講師として、「内科学校医の職務」ということでお話をさせていただきました。特に学校保健法が学校保健安全法になったものですから、学校安全というもの



の考え方について。それから、今年から中野区でもアレルギー性疾患に対する管理指導表というものが学校の中で運用されてくると思いますので、そういったものについての話も、東京都全体のお話でございますけれども、お話をさせていただきました。

最後ですけれども、昨日、東京都医師会の学校医会がございまして、その中で幾つかあったのですが、1点だけお話をさせていただきます。

実は、日本眼科医会のほうの話でございますけれども、特に幼児期の視力検査というのが、斜視とか弱視を検出するために不可欠であると。6歳を過ぎてから治療しても効果はなかなか期待できないということでもありますので、例えば幼稚園とか保育園での視力検査の実施についてぜひ行っていただきたいという要望が出まして、これを受けて、文部科学省のほうの課長通達で「児童・生徒の健康診断について眼科検診の充実を図ってほしい」という通達が出ておりました。地区としても、今後どのように進めていくのか、また、保育園とか幼稚園、必ずしも眼科医が学校医に配置されていない状況もありますので、子どもたちの今後の視力とかの確保のためには必要な検診になるのかなと思って、これからも勉強していきたいと思っています。

私からは以上です。

飛鳥馬委員長

それでは、大島委員、お願いします。

大島委員

私も、4月1日の辞令伝達式に出席させていただきました。特に新任とか他区から転任されてこられた先生方の伝達式では、フレッシュな新任の先生方の若い力を目にして、子どもたちに慕われ、また信頼されるような先生にぜひ育てほしいものだなと。フレッシュなパワーに期待したいなというふうに思った次第です。

私からは以上です。

飛鳥馬委員長

では、高木委員、お願いします。

高木委員

私も、4月1日、教育委員会の発令式に出席しました。内容は、ほかの委員の方がご報告したとおりです。

以上です。

飛鳥馬委員長

では、教育長、お願いします。

教育長

4月1日、他の委員と同様に、辞令伝達式に私も出席をしておりますが、それに先立ちまして、中野区の職員の入区式にも参加いたしました。区の職員のほうは46人という採用で、やはり大量退職時代ですので、ここ数年、採用は大分ふえてきたのですが、46人というのはかなり多い人数になります。

また、辞令伝達式につきましては、新採、転入主幹、それから転入の教員に対する辞令伝達式ということで、総勢で83名に伝達をいたしました。また、そのうち1名は新採の幼稚園の教諭に発令をいたしました。幼稚園の教諭についても中野区教育委員会としては久しぶりの採用ということになります。

それから、4月2日と4月5日に、中野警察、野方警察にごあいさつに行っていました。これは毎年、年度初めに指導室の生活指導の指導員とともにやって来るわけですが、近年、警察につきましては、子どもたちの犯罪の予防ですとか、課題を抱えるお子さんの社会的な更生というようなことまでいろいろ協力していただいたり、各学校のセーフティ教室も積極的にかかわってご協力いただいているということもあります。また、地域の方々がこうした活動に警察と学校と一緒に協力をしてくださるという場面も相当多くなってきていますので、いろいろな形で、「今年度もよろしく」というごあいさつをしてまいりました。

それから、昨日、教育施策連絡会は委員長とともに出席をいたしました。

以上でございます。

飛鳥馬委員長

それでは、今各委員から報告がありましたけれども、質問とか発言がございますか。

ないようですので、事務局報告に移ります。

<事務局報告事項>

飛鳥馬委員長

それでは、事務局からの報告をお願いします。

「平成21年度第1回中学生『東京駅伝』大会競技結果」の報告を学校教育担当からよろしくをお願いします。

副参事（学校教育担当）

「平成21年度第1回中学生『東京駅伝』大会競技結果」についてご報告申し上げます。

今年3月21日に中央区の晴海埠頭におきまして実施されました。出場チーム数ですが、1のところに記載がありますように、23区・26市・2町ということで、チームの数にしますと男子は51チーム、女子は50チームになります。

次の「選手・役員・観客者総数」でございます。東京都教育庁の発表では約1万5,000人ということになってございます。

次に、3の「競技結果」でございます。資料に記載のとおりでございますが、中野区の結果でございます。中野区は、男女総合では21位、タイムにして4時間25分17秒でございます。男子の部は24位、2時間31分10秒、また、女子の部につきましては15位、1時間54分7秒でございます。加えて、女子の個人の部では、2.5kmの部で2位になった方がいらっしゃいます。

なお、平成22年度の第2回中学生「東京駅伝」大会は、平成23年3月20日日曜日で決定してございます。

以上でございます。

飛鳥馬委員長

それでは、今の東京駅伝について何か質問等はございますか。

応援に行かれた先生もいらっしゃいますので、どうぞ。

山田委員

この日、午前中だけでしたが、応援かたがた拝見してきたのですけれども。当日、最初悪天候が予想された中で、無事に開催できて、けががなかったことは非常によかったのかなと思うのです。先ほど報告がありましたように、今年度ももう日が決まっているということは、今後はこれは定例化してやっていく覚悟なのだろうなということですが、こういったイベントは、一つは体力向上、あと、みんなで力を合わせてという協調性ですか、この間ちょっとお話ししましたように、他校の子どもたち、もしくは他校の教員同士が交流できる場としては非常にいいと思うのです。今後、中野区の教育委員会として、例えば今やっている中学校の体育大会との整合性ですとか、こういった駅伝というものの位置づけですね。できれば体力関係で教育委員会が音頭をとってやれるようなものが一つあればいいのかなと。一方では、文化的なものについても教育委員会が何か一つ目標を示してやるというような二つのことを今後検討していくべきではないかなと思います。特に駅伝については、ほとんどの競技会が、今、子どもたちはそんなに長い距離を走っていないと思いますので、今年事故がなかったのは幸いですけれども、今後のことを踏まえれば、

やはり子どもたちの基礎的な体力を使う意味で、学校の教育、もしくはそのほかの教科と  
いいますか、その中でどのようにこれを取り扱っていくか検討していく必要があるのでは  
ないかと思います。

あと、委員長、きのうの施策のほうで都の教育委員からはこの辺の話で何かコメントが  
あったでしょうか。当日、都の教育委員も来られていまして、ずっとアナウンスメントさ  
れていました。熱い思いを語っておりましたけれども、きのうそんなお話があったどうか  
お伺いしたいと思います。

飛鳥馬委員長

きのう都の教育委員からその話がありました。一つは、「第1回目、各教育委員会のご協  
力をいただいてありがとうございます」というお礼の言葉がありました。それから、こ  
れは大原教育長も言っていたことですが、「東京都の子どもは体力が非常に劣っていた。だ  
けど、各先生方のご努力で随分よくなった。非常に感激するぐらいよくなった」というこ  
とで褒めておりました。その中で都の教育委員も駅伝の当日の話もしてくれました。そう  
いう話をしておりました。

ほかに何かございますか。

はい、どうぞ。

教育長

一昨日、中P連の方と懇談をさせていただいたのですけれども、中P連も当日応援に行っ  
ていただきました。中P連の感想としては、私立のお子さんとか国立のお子さんもおられ  
るので、来年度はそうした私立や国立のPTAにも声をかけて一緒に応援団を組みたいと  
いうことで、これをきっかけに、駅伝だけでなく、さまざまな交流のきっかけになれば  
いいというようなことをお話になっていらしたのと、それから、当日、二中の生徒さんが  
応援に来ていて、子どもたちは子ども同士で一生懸命応援したということで相当元気づけ  
られたのではないかとということで、子どもたちの参加についても考えていきたいと。中P  
連は、駅伝対策部ではありませんけれども、専門部を設けて今年度は活動するというよう  
なことでした。

飛鳥馬委員長

もう一つ、都の教育委員の話につけ加えると、「走った選手の中には、囲碁部の生徒がい  
たとか、吹奏楽部の生徒もいた」とかという話をしているのです。ですから、今、教育長  
が言われたように、区を挙げて、みんなで鍛錬してというふうになって、競走、競走になっ

ていってしまうと、どうしても、やるなら競走に勝ちたいというのがありますので、その辺の兼ね合いが非常に難しい。小さな区であったりすると、囲碁をやっているも特に強い子がいたりすると出さざるを得ないというか、出すことはあるのでしょうか、そういうのと、東京まで行かなくても、中野の中でも、小さい学校もありますので、どうするかというのはまたいろいろ課題があるかなと思いますが、そういうことを言っておりました。

ほかにどうでしょうか。

はい、どうぞ。

大島委員

感想です。

こういう大会でいろいろな交流ができたりとか、スポーツに対する関心が高まったりとかという機運をつくる意味でとてもいいと思うのですけれども、ここに参加するのはごく一部の生徒さんだと思うので、こういうことを機運の盛り上がりのきっかけにして、もっとすそ野の一般中学生にも体力をつけるというような方向での動機づけの一つになるといいなと思うのです。例えば、みんなが代表を目指そうとかということを音頭をとったりする必要はないのですけれども、こういうこともあるから、学校の中でももう少し走るようにしようとかというような、各学校で何か工夫していただいて、とにかく健康と体力が一番大事だと思っていますので、体を動かす方向での運動の一環としてこういうのを利用して体力づくりをさらに進められたらいいのではないかと。そうすると、一般の生徒にもこういうもののいい影響が及ぶなどということを感じて感想として考えました。

飛鳥馬委員長

ほかにはよろしいですか。

それでは、次に移ります。

次は、教育管理職の異動についての報告をお願いいたします。

指導室長。

指導室長

それでは、4月1日付で教育管理職の異動がございましたので、その報告をいたします。資料をごらんいただきたいと思います。

小学校校長・副校長、同じく中学校校長・副校長、また幼稚園園長・副園長、合わせまして29名の異動がございました。その表のとおりでございます。

まず、特徴的なところを幾つかお知らせいたします。

かみさぎ幼稚園でございますけれども、小学校の校長の併任ということになりました。それから、昇任によって校長先生、また副校長先生になられた方については、小・中合わせまして15名ということになります。また、再任用の校長先生につきましては、小学校3名、中学校1名、合計4名。また、前年度からの継続の方もいらっしゃいますので、今、5名の方が再任用ということになっております。また、事務局のほうでは、統括指導主事、指導主事2名が異動でございます。その表のとおりでございます。どうぞよろしく願いいたします。

以上でございます。

飛鳥馬委員長

何か質問がありましたら、どうぞ。

よろしいでしょうか。

それでは、次に移りたいと思います。

次は、「デジタル美術館『中野区の至宝』について」の報告をお願いします。生涯学習担当、どうぞ。

副参事（生涯学習担当）

「デジタル美術館『中野区の至宝』について」、ご報告申し上げます。

これは、平成20年度に東京都から中野区に対して交付されました東京都緊急雇用創出区市町村補助金というのがあったのですが、この事業の一環でございます。区政資料のデジタル化ということでこれは申請したものでございます。これが完了いたしましたので、成果品を関係機関等に配付するというところでございます。

この事業目的は、歴史民俗資料館は、収蔵点数がかなり多く、きせる1本とか扇子1本まで数えますと4万点ぐらいあるというふうに考えられるのですけれども、すべてのものを展示するということはなかなかできないということで、取り扱いの点でも難しいもの、あるいはスペースが限られているということがございますので、区が所有するすぐれた文化遺産を常時鑑賞できるようにデジタル化を行ってDVDを作製したということでございます。この題名として「デジタル美術館『中野区の至宝』」というのうちのほうで命名したものでございます。

内容でございます。区が所有する陶磁器とか絵画、浮世絵、考古資料、民俗資料、これを500点ぐらい選びまして、電子媒体で鑑賞できるように、DVD仕様にしたということで

す。

この裏面をごらんいただきたいのですけれども、これは5枚一組のディスクになっておりまして、ここに出しているのはディスク2というものです。これは絵画関係なのですが、浮世絵のところをクリックしていただきますと、下にあるような、豊原国周という方のかいた絵が出てくるとか。そのほかに、陶磁器を集めたディスクもあるので、それをクリックしていただきますと、右下にあるような古伊万里の映像が出てくる。これはもちろんカラーで動画になっておりまして、この陶磁器の周りをぐるっとカメラがめぐったり、アップにしたり、そんなような映像になっているわけです。5枚全部見終わるのに大体2時間以上かかるかと思うのですけれども、5枚一組で大体200セットつくりました。

配付予定先としましては、厳密にはまだ詰めていないのですけれども、区内の公立・私立の小・中学校とか、公立・私立の高等学校、それから、区内の大学、短期大学、都内の図書館、都内の区市町村、都内の博物館・美術館等を予定してございます。これはもちろん無償で配付するものなのですけれども、6月以降、有償配付できるように今準備しているところでございます。

以上でございます。

飛鳥馬委員長

それでは、ただいまの報告で質問はございますか。

山田委員、どうぞ。

山田委員

せっかくつくった財産ですので、広く区民にお知らせしたほうがいいのではないかなど。例えば教育委員会の受付に1台あって見られるとか、地域センターにあって見られるとかということがあってもいいのではないかと。もしかしたら、それが有償配付のコマーシャルにつながるということになりますけれども、そういったお考えはいかがですか。

飛鳥馬委員長

はい、どうぞ。

副参事（生涯学習担当）

もちろん、これは貸し出しができるように教育委員会では準備したいと考えているのですが、その場で見られるかどうかというのはなかなか難しいかと思えます。そういう装置が必要だということ。そういうこともできないかということはいろいろ検討したのですが、それをセットして、来た方にすぐに見せられるかどうかというのは、そういった装置

がないと難しいのかなど。ただ、いろいろな工夫はしてみたいと思います。どんなことができるかというのは今後検討ということです。

飛鳥馬委員長

ほかにはどうでしょう。

はい、どうぞ。

高木委員

DVDで5枚組というと、かなり重たいというか、すごい容量があると思うのですが、これというのは、例えば有償配信というのがありますけれども、ウェブ上で一般の方が自由に見られるようにするというのは、著作権とかの関係でまずいのでしょうか。

飛鳥馬委員長

はい、どうぞ。

副参事（生涯学習担当）

著作権につきましては区が持っているものだと思いますので、その点は問題ないと思うのですが、技術的にどうかという問題があります。例えばホームページなどで出せないかということで実は広報等に相談もしてみたのですが、これは動画でございまして、容量がかなり大きいということで、今のサーバでは対応できないということで、そのところは難しいみたいです。そういうこともありますので、どこまでできるのかというのはこれからちょっと工夫してみたいと思っております。

飛鳥馬委員長

はい、どうぞ。

高木委員

先ほどの山田委員の宣伝ということもありますが、例えば全部やろうとすると、多分、DVD 5枚組というと莫大な金額もかかりますが、この中で特に目玉のものとかを1点、2点、あるいは3点ぐらい教育委員会のホームページで見られるようにする。続きは図書館でとか。1点でもいいのですけれども、そういうふうになると、こういうふうなものが見られるのだとなるから、それだと技術的なところも可能になるのではないのかなと思うのです。あるいは、1回つくってしまっただけで、多分予算を消化してしまったので、今さらお金はかけられないとは思いますが、例えば画像の質を少し落としてやれば容量も減るので、ちょっと検討だけして見ていただけますか。

飛鳥馬委員長



はい、どうぞ。

副参事（生涯学習担当）

実は広報に相談したというのは、今、高木委員がおっしゃったようなことでして、これを全部載せるということではできませんので、「目玉のものを幾つか載せられないか」という相談をしたわけですが、それが「大変難しい」というお話でした。質を落とすというのがいかどうかというのは何とも言えないところがありまして……。検討はしてみたいと思います。

飛鳥馬委員長

よろしいですか。

ほかにはよろしいでしょうか。

それでは、次にいきます。

ほかに報告事項はございますでしょうか。よろしいですか。

ないようですので、以上で本日予定した議事は終了しました。これをもちまして、教育委員会第11回定例会を閉じます。

午前10時39分閉会